令和6年1月25日

担当課：企画・地域振興部調査統計課
直　通：643－3187
内　線：2778
担当者：原田、太郎丸

令和4年度学校保健統計調査結果　確報について

この調査は、毎年、文部科学省が学校の幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにするため実施する基幹統計調査です。

この度、令和4年度調査結果の中から、本県分の集計結果を取りまとめましたので、公表します。

〔発育状況〕結果のポイント

①　全国平均値との比較

・身長は男女ともに概ね全国平均値と同じか下回っている。

・体重は男女ともに概ね全国平均値と同じか下回っている。

②　親の世代（平成4年度の数値）との比較

・男女の身長・体重ともに概ね親の世代を上回っている。

③　肥満傾向児の出現率について

・男子は10歳、女子は11歳で最も高くなっており、全国の出現率とほぼ同様の傾向である。

〔健康状態〕結果のポイント

●公表可能な被患率等の傾向について

・幼稚園においては「むし歯（う歯）」が最も高く、次いで「歯列・咬合」の順となっている。

・小学校、中学校、高等学校においては「裸眼視力1.0未満の者」が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

※福岡県の集計結果の詳細は、福岡県オープンデータサイトに掲載。

https://ckan.open-governmentdata.org/dataset/401000_gakkouhoken2022kenkakuhou

※　国の集計結果は、文部科学省ホームページに掲載。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm

福岡県オープンデータサイト	文部科学省HP

令和４年度　学校保健統計調査結果　確報について

１　調査の概要

（１）調査の目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

（２）調査対象等

○　国立、公立、私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校の満５歳から 17 歳（令和４年４月１日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）

○　調査事項は、学校保健安全法により実施される健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態（身長、体重）及び健康状態（疾病・異常の有無）を調査

○　調査実施校数等は次のとおり

区分	調査実施校数（校）	発育状態調査		健康状態調査	
		対象者数（人）	抽出率（%）	対象者数（人）	抽出率（%）
幼稚園	39	1,407	6.8	2,316	11.2
小学校	64	6,076	2.2	37,731	13.5
中学校	43	4,873	3.4	22,679	16.0
高等学校	36	3,240	2.7	32,566	26.8
計	182	15,596	2.8	95,292	16.9

＊　幼稚園には、幼保連携型認定こども園を含む。
＊　小学校には、義務教育学校（第１～６学年）を含む。
＊　中学校には、義務教育学校（第７～９学年）及び中等教育学校の前期課程を含む。
＊　高等学校には、中等教育学校の後期課程を含む。
＊　幼稚園は５歳児のみ、高等学校は本科の第１～３学年の人数である。
＊　抽出率は、本県の全幼児、児童及び生徒数に対する対象者数の割合である。

（３）調査時期

令和４年４月１日から令和５年３月 31 日の間に実施される健康診断等の結果に基づき実施。

２　調査結果の概要

（１）発育状態

ア　身長

○　全国の平均値と比較すると、男子は 11 歳及び 16 歳を除く各年齢で全国平均値と同じか下回っており、女子は 10 歳及び 16 歳を除く各年齢で全国平均値と同じか下回っている。

全国の平均値を最も下回っているのは、男子では 10 歳の 0.9 ㎝、女子では 17 歳の 0.7 ㎝となっている。

○　昭和 23 年度以降の平均値の推移をみると、男子、女子共に伸びる傾向にあったが、平成に入ってからおおむね横ばい傾向となっている。

イ　体重

○　全国の平均値と比較すると、男子は８歳、10 歳及び 12 歳以上で全国平均値と同じか下回っており、女子は５歳、９歳から 11 歳及び 16 歳を除き全国平均値と同じか下回っている。

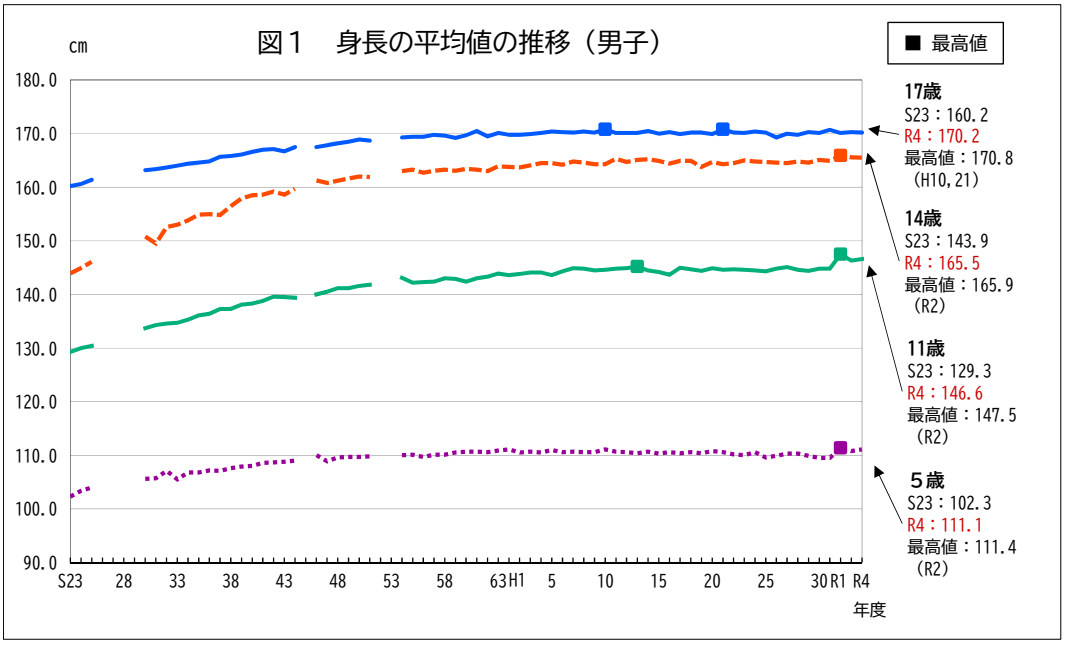
全国の平均値を最も下回っているのは、男子では 13 歳で 0.9 ㎏、女子では 17 歳の 0.7 ㎏となっている。

○　昭和 23 年度以降の平均値の推移をみると、男子、女子共に伸びる傾向にあったが、調査年度により多少の上下はあるものの、平成に入ってからおおむね横ばい傾向となっている。

表１　男女・年齢別　身長の状況　　（単位:cm）

区分		男子					女子					男女比較
		令和4年度 A	令和3年度 B	差 A－B	令和4年度 全国 C	差 A－C	令和4年度 D	令和3年度 E	差 D－E	令和4年度 全国 F	差 D－F	A－D
幼稚園	5歳	111.1	110.8	0.3	111.1	0.0	109.8	109.7	0.1	110.2	-0.4	1.3
小学校	6歳	116.8	116.1	0.7	117.0	-0.2	116.0	115.8	0.2	116.0	0.0	0.8
	7歳	122.7	122.6	0.1	122.9	-0.2	121.7	121.3	0.4	122.0	-0.3	1.0
	8歳	128.4	127.9	0.5	128.5	-0.1	127.5	127.3	0.2	128.1	-0.6	0.9
	9歳	133.9	133.4	0.5	133.9	0.0	134.5	134.1	0.4	134.5	0.0	-0.6
	10歳	138.8	139.4	-0.6	139.7	-0.9	141.8	141.2	0.6	141.4	0.4	-3.0
	11歳	146.6	146.3	0.3	146.1	0.5	147.8	147.2	0.6	147.9	-0.1	-1.2
中学校	12歳	153.9	153.3	0.6	154.0	-0.1	152.1	151.9	0.2	152.2	-0.1	1.8
	13歳	160.3	160.4	-0.1	160.9	-0.6	154.6	154.6	0.0	154.9	-0.3	5.7
	14歳	165.5	165.6	-0.1	165.8	-0.3	156.2	156.4	-0.2	156.5	-0.3	9.3
高等学校	15歳	167.9	167.8	0.1	168.6	-0.7	156.9	157.6	-0.7	157.2	-0.3	11.0
	16歳	170.0	169.8	0.2	169.9	0.1	157.8	157.5	0.3	157.7	0.1	12.2
	17歳	170.2	170.3	-0.1	170.7	-0.5	157.3	157.9	-0.6	158.0	-0.7	12.9

（注）　年齢は、各年４月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。



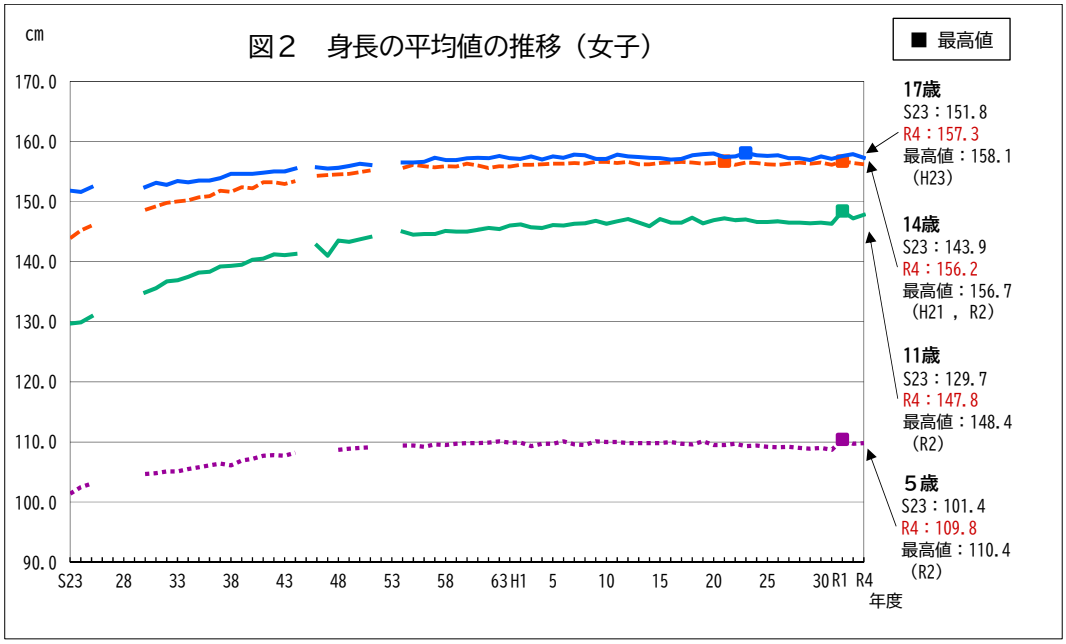
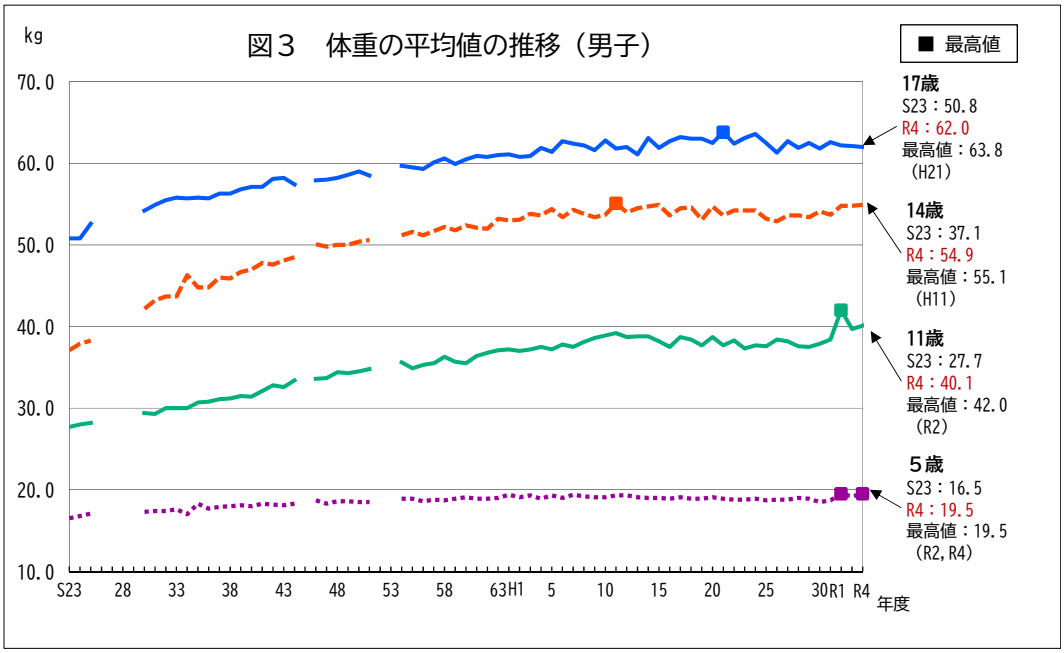
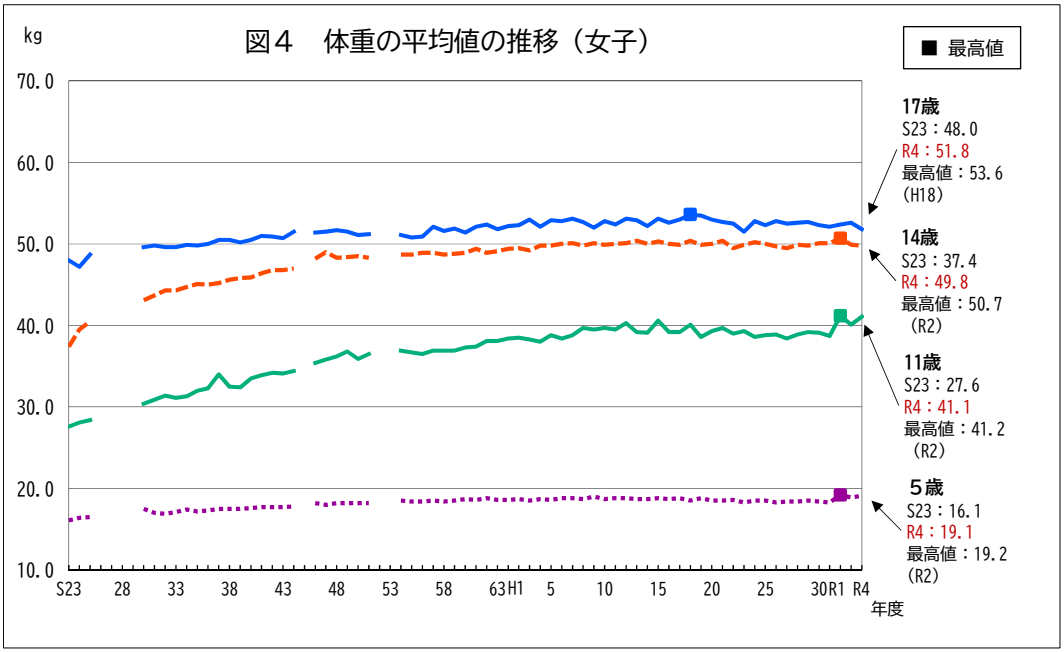


表２　男女・年齢別　体重の状況　　（単位：kg）

区分		男子 令和4年度 A	男子 令和3年度 B	男子 差 A－B	男子 令和4年度 全国 C	男子 差 A－C	女子 令和4年度 D	女子 令和3年度 E	女子 差 D－E	女子 令和4年度 全国 F	女子 差 D－F	男女比較 A－D
幼稚園	5歳	19.5	19.2	0.3	19.3	0.2	19.1	18.9	0.2	19.0	0.1	0.4
小学校	6歳	21.9	21.4	0.5	21.8	0.1	21.3	21.2	0.1	21.3	0.0	0.6
	7歳	24.7	24.2	0.5	24.6	0.1	24.0	23.7	0.3	24.0	0.0	0.7
	8歳	28.0	27.3	0.7	28.0	0.0	26.9	27.1	-0.2	27.3	-0.4	1.1
	9歳	31.6	30.8	0.8	31.5	0.1	31.2	31.1	0.1	31.1	0.1	0.4
	10歳	35.3	35.0	0.3	35.7	-0.4	35.9	35.3	0.6	35.5	0.4	-0.6
	11歳	40.1	39.7	0.4	40.0	0.1	41.1	40.1	1.0	40.5	0.6	-1.0
中学校	12歳	45.4	45.5	-0.1	45.7	-0.3	44.4	44.3	0.1	44.5	-0.1	1.0
	13歳	49.7	49.5	0.2	50.6	-0.9	47.7	47.3	0.4	47.7	0.0	2.0
	14歳	54.9	54.8	0.1	55.0	-0.1	49.8	49.9	-0.1	49.9	-0.1	5.1
高等学校	15歳	58.8	57.9	0.9	59.1	-0.3	51.2	52.1	-0.9	51.2	0.0	7.6
	16歳	60.6	60.6	0.0	60.7	-0.1	52.6	52.7	-0.1	52.1	0.5	8.0
	17歳	62.0	62.1	-0.1	62.5	-0.5	51.8	52.6	-0.8	52.5	-0.7	10.2





ウ　世代間比較

子世代、親の世代（30 年前）、祖父母世代（55 年前）を比較すると、おおむね身長・体重とも各世代間で増加していることがわかる。全体的には祖父母世代と親の世代の間で大きく増加している。親の世代と子世代の間でもおおむね増加しているが、祖父母世代から親の世代の間に比べると増加の割合は小さい。

表３　世代間比較（身長、体重）

区　　分	男子						女子					
	平均身長（cm）			平均体重（kg）			平均身長（cm）			平均体重（kg）		
	祖父母世代	親世代	子世代	祖父母世代	親世代	子世代	祖父母世代	親世代	子世代	祖父母世代	親世代	子世代
８歳　（小学校３年生）	124.3	127.9	**128.4**	24.1	27.0	**28.0**	123.6	126.9	**127.5**	23.4	26.1	**26.9**
11歳　（小学校６年生）	139.6	144.1	**146.6**	32.8	37.5	**40.1**	141.2	145.6	**147.8**	34.2	38.0	**41.1**
14歳　（中学校３年生）	159.2	164.5	**165.5**	47.6	53.6	**54.9**	153.2	156.2	**156.2**	46.8	49.8	**49.8**
17歳　（高等学校３年生）	167.1	170.1	**170.2**	58.1	61.9	**62.0**	155.0	157.0	**157.3**	50.9	52.1	**51.8**

（参考）世代区分表

区分	区分	祖父母世代（55年前）	親の世代（30年前）	子世代
		昭和42年度調査	平成4年度調査	令和4年度調査
8歳	小学校3年生	昭和33年度生まれ	昭和58年度生まれ	平成25年度生まれ
11歳	小学校6年生	昭和30年度生まれ	昭和55年度生まれ	平成22年度生まれ
14歳	中学校3年生	昭和27年度生まれ	昭和52年度生まれ	平成19年度生まれ
17歳	高等学校3年生	昭和24年度生まれ	昭和49年度生まれ	平成16年度生まれ

エ　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

○　肥満傾向児の出現率は、男子は 10 歳で 17.14%と最も高くなっており、それより上の年齢では 10%～12%台となっている。女子は 11 歳で 12.02%と最も高くなっており、それより上の年齢では減少傾向にある。

　また、男女別に比較すると、５歳を除く各年齢で男子が女子より出現率が高くなっている。

○　全国と比較すると、５歳から７歳、９歳から 11 歳、15 歳及び 16 歳の各年齢で全国より出現率が高くなっているが、傾向としてはほぼ同様となっている。

○　平成 18 年度以降、調査年度により多少の上下はあるものの、男子、女子共におおむね横ばいで推移している。

○　痩身傾向児の出現率は、男子は 16 歳で 3.44%、女子は 12 歳で 4.20%と最も高くなっている。男子は 11 歳、女子は 10 歳で２%台となり、それより上の年齢では、男女ともに２～４%台となっている。

　また、男女別に比較すると、６歳から８歳、10 歳、12 歳及び 14 歳の各年齢で、女子が男子より出現率が高くなっている。

○　全国と比較すると、６歳、12 歳から 14 歳及び 16 歳の各年齢で全国より出現率が高くなっているが、傾向としては全国とほぼ同様となっている。

○　平成 18 年度以降、調査年度により多少の上下はあるものの、男子、女子共におおむね横ばいで推移している。

（2）健康状態

疾病・異常を公表できる被患率等別にみると、幼稚園においては「むし歯（う歯）」が最も高く、次いで「歯列・咬合」の順となっている。

小学校、中学校、高等学校においては「裸眼視力 1.0 未満の者」が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている

ア　裸眼視力

○　裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、15 歳で 72.8%と最も高くなっている。

○　裸眼視力 1.0 未満の者の割合を全国と比較すると、14 歳、15 歳及び 17 歳を除く各年齢で全国を上回っている。

○　昭和 54 年度以降の裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移をみると、小学校及び中学校では増加傾向にある。高等学校においても調査年度により増減はあるものの増加傾向にある。

イ　むし歯（う歯）

○　年齢別のむし歯の者の割合は、９歳で 51.0%と最も高くなっている。

○　割合を全国と比較すると、全ての年齢で全国を上回っている。

○　昭和 45 年度以降の「むし歯」の者の割合の推移をみると、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のいずれにおいても、昭和 50 年代にピークを迎え、その後は減少傾向にある。

ウ　アトピー性皮膚炎

○　アトピー性皮膚炎の者の割合は、15 歳及び 17 歳で 1.9%と最も高くなっている。

○　割合を全国と比較すると、５歳から 17 歳の全ての年齢で全国を下回っている。

○　平成 18 年度以降の割合の推移をみると、おおむね横ばいで推移している。

エ　ぜん息

○　ぜん息の者の割合は、13 歳及び 15 歳で 2.7%と最も高くなっている。

○　割合を全国と比較すると、13 歳、15 歳、16 歳及び 17 歳を除く各年齢で全国を下回っている。

○　昭和 45 年度以降の割合の推移をみると、各学校段階とも、おおむね増加する傾向にある。